

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275100441		
法人名	医療法人駿甲会		
事業所名	グループホーム実夢大覚寺 (2ユニット合同)		
所在地	静岡県焼津市2丁目19-3		
自己評価作成日	平成28年2月18日	評価結果市町村受理日	平成28年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2275100441-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年3月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者さんと職員がともに生活をしていく中で入居者さんの思いや願いが共有、実現できるように日々の中で決断策を検討している、また入居者のほとんどが法人の医療機関が主治医の為、連携が取れやすい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1月に急に着任となった管理者ですが、すでに新たな3つに着手しています。一つめは年間計画の制作で、行事・合同会議・防災と項目を分け、一年間に取組むべき事柄が整理できています。二つめはモニタリング表の導入です。記載そのものは適切にされていたものの、これまでは経過記録的なシートでしたが、今後は長短目標の達成度、本人・家族の満足度についてミエル化されることになります。三点めは、受診支援を家族がおこなうとき『連絡票』を介することで医療連携が密となりました。そして最も大きなサプライズは職員配置が十分になるとともに管理者が夜勤に入ることなく日中事業所にいることで安心感が高まっていることです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度の初めの職員ミーティング時に今年度の目標や理念について話し合いの場を設けている。	新任職員には法人で理念を含む研修プログラムが用意され、事業所でも毎年の目標を理念に基づき作成しています。また理念を解説するファイルも備えられ、つい先日も大学からの実習生へのプレゼンテーションに使用しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の自治会に入り地域の行事に参加している。	川掃除には職員が出向き、大覚寺の祭りには利用者が招待され、子ども神輿は駐車場に立ち寄って踊りを披露くださいます。新任の管理者は年間を通じて参加できることについて自治会長に挨拶を兼ね伺う予定となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の行事に参加したり広報誌を回覧して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価や実地指導の結果を報告し職員ミーティングにて検討、改善の場を設けている。	報告書は新任管理者の手によって見やすく作り替えられています。自治会長と民生委員の出席が得られていないことは課題ですが、実習生の感染症チェックについてなど事業所に有益な意見交換が成されていることを書面確認しました。	予めメンバーとしてある皆さんは事情があって出席できないようですので、新たな支援者の発掘を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回の運営推進会議の場で報告している。	運営推進会議は土曜日開催にもかかわらず、地域包括支援センター、市役所長寿福祉課が顔をそろえてくださり、手厚い支援を受けています。また事業所間の連絡会、集団指導では学びを深め、連携に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言事業所として身体拘束をしないケアに取り組んでいる。平成28年度は身体拘束に関する施設内研修を予定している。	法人では年1回研修会がありますが、「所内でも今後は繰り返しのミニ勉強会ができれば…」と管理者は考えています。現在身体拘束が心配される症状の利用者はいませんが、職員配置に余裕がない期間があったことで「ちょっと待ってね」が癖になってしまったことが課題です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の表情や全身状態の観察を日々おこない職員間で情報を共有しているH28年度は倫理や虐待についても研修をおこなう予定。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があれば研修等に参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明と理解が得られるようわかりやすい言葉で説明している。解約の際は料金設定について十分説明しご理解をいただいている、また各関係機関の相談員やケアマネジャーと連携し退所後の支援もこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者は普段から職員との会話の中で家族は面会時や家族会等の中でお話を聞かせて頂き意見を反映できるようミーティング等で話し合っている。	家族からも職員が手一杯であることへ指摘や心配の声があがっていましたが、やっと増員に至り安堵している状況です。前任者が管理者交替を事前に案内しており、現任者もおおよそ1ヶ月間で面会を通じて全家族と顔を合せています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングのなかで意見を反映させている。	「古参の職員が新任職員の指導を～」が理想ですが、「役職や立場が変わらないと難しい」と管理者は考えており、まずは実践者研修に1名の申込みをしています。	管理者の指導を以て職員間で相互にフィードバックし合える態勢となることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の基準に従い各職員が向上心をもって働けるように努めている。(昇給、昇格、リフレッシュ休暇)など		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の合同会議には担当を決め参加している年に1回、法人内の事例検討発表会にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1回の法人内でのテーマに沿った発表や会議に参加している、また3ヶ月に1回の市内グループホーム連絡会に参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時日本人の意向を伺い対応している、また毎月、施設サービス計画についてモニタリングをおこない評価している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話をよく聞き事業所としてどう対応できるか話し合っている契約前に見学に来ていただき施設の設備や雰囲気を見ていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームだけではなく他の事業所の資料をも備え家族や本人にとって何がベストなのか考え対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	台所の仕事や洗濯など出来ることはお手伝いしていただいている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所下時には近況を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への外泊や外出なじみの美容院等への外出の支援をおこなっている。	以前絵画を趣味としていた人は職員と一緒に『大人の塗り絵』を買ってきて没頭するなか、濃淡が多彩で色鉛筆とは思えない傑作が日々生まれています。面会は時間制限せず勤務の帰りに立ち寄る19時頃訪問の家族もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者さん同士、席を同じにしたり日常生活の中でスタッフが気配りしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了をしても各関係機関と連携し退所後もフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員ミーティングや担当者会議、を通して意向の把握や本人本位にサービスが提供されるように努めている。	優しい口調の対応ですが、内容としてはやや職員主導がみられ、「集団生活だから」「決まりだから」といった意識が滲みます。定着してしまっていることのため、本人本位のやりとりができるよう地道に話し合うことを管理者が決めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの聞き取り、相談員やケアマネジャーからの情報提供を受けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の生活パターンを経過記録等で把握し職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回のモニタリングを実施し本人、家族の意見を反映し介護計画に活かしている。	これまでは居室担当職員と計画作成担当者、ケアマネジャー(1階の計画作成兼務)主体のサービス担当者会議であったため、今後は家族も交えたものに変更していこうと準備を進めています。	家族を交えた担当者会議の実現により、親和が深まるとともに本件がより充実することを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の申し送り等で情報は共有し必要時早急に対応できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物、外出、受診の付き添いなど柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり地域の方がボランティアとして施設に来てくれる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	管理者が受診時には付き添い近況を報告している。	母体医療機関を協力医として全員が職員付添いで受診しています。ただし専門医は家族におこなってもらうため、新任管理者が『連絡票』を用意して医療連携を密にさせています。週に1度訪問看護の健康管理もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度看護師による回診があり助言を受けている、入居者さんに異常がある場合は早期に受診している夜間は法人の医療機関に電話し看護師や医師から指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供をし主治医、本人、家族と今後について話し合いの場を持っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見取りについては現在おこなっていません、重度化した場合や終末期については各関係機関と連携し本人やご家族に負担にならない方法を検討している。	看取りはおこなわない方針で入居時にも家族と合意できており、今後の取組みも考えてはおりません。協力医療機関と協定書を交わしており、休診日や夜間にかかわらず24時間の受入を約束してもらっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを整備し連絡や対応方法について周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を実施している。	法人MQM推進課を中心に各事業所間で無線連絡練習を月1回おこなっています。避難経路は掲示し、年2回の訓練では体験を通して学んでいます。備蓄は数的に揃っていませんが法人がすぐ近くのため分けてもらえることになっています。	法人本部でどの程度分けてもらえるか、あらためての確認ならびに精査を期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いなどは職員ミーティング等で随時気をつけるよう注意を促している。	お嫁さん、息子的な言動は否めませんが、利用者本人の身だしなみをはじめ生活環境からはルールに準じた衛生管理が伝わります。面会簿は職員希望でカード式から名簿式となり個人情報保護には逆行している状況にあります。	カード式において手間を減らす方法を模索し、あらためて個人情報保護について話し合うことを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	業務の流れや職員の都合が優先されないようスタッフ一人一人心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者さんの言動や様子で臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分が昔着ていた服を家族に持ってきて頂いたり化粧品の購入などの支援をおこなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皿を洗ったりテーブル拭きなどのお手伝いをして頂いている。	新任管理者は食べたいときに食べ、やめたいときにやめられたらいいと考えていますが、「時間を守る」「食べ方はきれいじゃない」といった意識が未だ職員に残っているため、利用者本位を目標にしています。	車いすのままテーブルについている人が4名いましたので、介助があれば椅子へ移乗できる人については是正を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態似合わせ量や食事形態を決めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力居合わせ対応している義歯の方は毎日洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使い排泄パターン、排泄量を把握しトイレで排泄できるよう働きかけている。	管理者着任後、経過記録に時間まで記録していた排泄情報は排泄チェック表に1本化して把握しやすくしました。「出来るだけトイレで～」を目指し、日中はリハパンでトイレ介助を慣行し、現在2人介助の必要な人が2名います。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレに座って排泄できるよう支援をしている 排泄チェック表にて便秘の有無を確認している 3食の食事以外にも午前、午後にお茶などを提供し水分摂取に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中は曜日に関係なく入浴できるように支援をしている。	湯は足し湯で入れ替えをしていないため「一番風呂が～」には必ず応え、洗身具、シャンプーは各々使い慣れた好みのものを置いています。「冬は乾燥する～」と就寝前にワセリンを塗ることが職員の発案で慣行されています。	1階は5Sについて振り返り、改善することを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員の都合ではなく本人のペースにあわせ就寝援助をおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の情報はケース記録に綴じ確認できるようにしています薬の変更があれば共ノートに記載し職員全員が確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皿洗いや洗濯物干しなど主婦として働いてきた経験を施設で活かしてもらっている、手伝いをして頂いたときは職員からは「ありがとう」と声をかけるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は散歩に出かけてりしている 外出レクリエーションなどの企画もあります。 地域のお祭りにも参加しています。	職員配置が整ったことで車いすの人の散歩も増え、頻度は少ないものの地域の祭りや文化祭に展示してある自身の作品を見にでかけています。また「どこ行きたい」と尋ねると「生まれ育った家に」と答える人が多く、近隣ならば希望に副っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に職員と出かけ支払いが出来る方は見守りを行い自分で支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や本人が趣味で書いた絵を部屋に飾っている。	グラジオラスの鮮やかな色が濃いグリーンのソファや草木色のカーテンを背景に映え、壁に掲げられた絵画からは静かで落ち着いた暮らし向きが覗えます。朝夕、掃除機とモップがけ、換気は午前1回おこなっています。	洗濯干しのバーがリビングに常時置かれているようですので、都度の片付けと併せて湿度計の設置と温湿管理も期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほとんどの居室は食堂から見えない造りになっており一人になれる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で生活していたときのものを施設に持ち込みなじみの環境の中、生活をして頂いている。	趣味の塗り絵を壁一面に貼りつけ、また化粧品や身の回りのこまごましたものを持ち込んだ居室を視認しました。大きなクローゼットの収納力が高く、どの居室も整理されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所を記したり居室の前に名前を張りわかるようにしている。		